

## 社会福祉協議会によるデイサービス施設の空間構成と利用形態

## - 周防大島町における社会福祉協議会委託管理方式によるデイサービス施設の整備プロセス その3 -

デイサービス施設 周防大島町社会福祉協議会 空間構成  
利用形態

正会員 ○大橋 彩織\*  
正会員 三島 幸子\*\*  
正会員 石橋 凧砂\*  
正会員 孔 相権\*\*\*  
正会員 中園 真人\*\*\*\*  
正会員 山本 幸子\*\*\*\*\*

## 1. はじめに

本報では社会福祉協議会委託管理方式で運営されるデイサービス施設において、活動場면을精緻に把握することにより、施設の空間構成と利用形態の関係を明らかにすることを目的としている。調査内容は、平面図の作成、活動場面の記録調査である。活動場面記録調査は、5分間隔で利用者及びスタッフの施設内での行動観察を行い、行為の内容と場面を平面図に記録するとともに、写真撮影を行った。調査日時は施設Aは平成26年10月29日、施設Bは10月27日、施設Cは11月5日、施設Dは11月4日、施設Eは10月28日、施設Fは11月6日に行った。

## 2. 施設の空間構成

6施設の空間構成と使われ方の関係を整理した結果、「午睡室分離型」、「午睡室活用品型」の2タイプに分類することができた(図1)。

「午睡室分離型」は機能訓練室・食堂と別に午睡室を設けるタイプで、施設A,B,C,D,Eの5施設がこのタイプに該当する。機能訓練室(以下:訓練室)で自由時間・食事・機能訓練を行い、午睡室は午睡のみに活用される。食事から午睡への移行が容易で、午睡のみだけでなく自由時間の静養が可能である。一方食事も自由時間も同じ空間で過ごすため、くつろぎも食事の席となると指摘されている。<sup>1)</sup>施設A,B,C,Dでは午睡静養室(以下:午睡室)が和室になっており、施設Eでは午睡室が和室部分とフローリング部分から構成されている。施設D,Eでは訓練室内にベッドを置き、空間を分けて訓練室でも午睡を行っている。施設Eについては、以前は施設A,B,Cと同様の空間構成であったが、現在は地域の交流室として活用されていた別室を転用しデイサービスを行っており、専用室以外を使用している点で特徴的である。「午睡室活用品型」は午睡室を午睡時のみでなく自由時間にも活用しているタイプで、施設Fの1施設のみがこのタイプに該当する。

調査対象施設の平面図と各部屋の面積、写真を図2に

	モデル図	施設名
午睡室 分離型		施設A 施設B 施設C
		施設D
		施設E
午睡室 活用品型		施設F

凡例: 機:機能訓練室、食:食堂  
自:自由時間、午:午睡静養室  
注1: :空間を分割 :部屋が隣接  
:廊下を介す

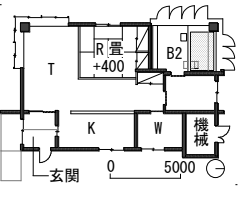
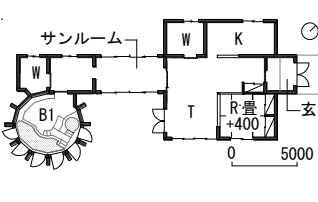
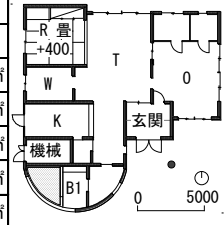




図1 空間構成の分類

示す。施設Aは訓練室・静養室(午睡室)・浴室・脱衣室にリフト浴が設置されている施設である。事務室は確保されておらず、訓練室の一角にデスクを置き職員が作業を行っている。そのため、職員がデスクで作業をしながらの見守りが可能になっている。訓練室と午睡室は隣接しており、午睡

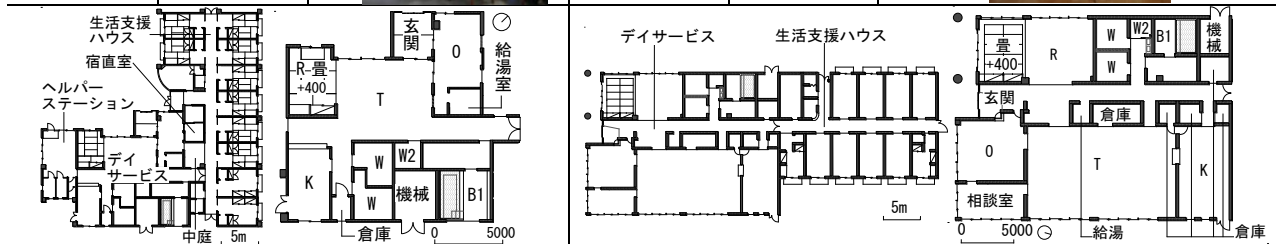
の際の移動距離は短い。

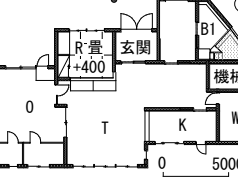

トイレは1カ所しかないため、廊下にトイレ待ち用の椅子を設置している。調理場は訓練室と隣接し、さらにカウンターが設置されているため、配膳作業が容易に行える。施設Bも施設Aと同様の部屋構成ではあるが、リフト浴はなく、トイレは2ヶ所整備されている。脱衣所横のトイレは増築されたもので、訓練室での活動中と入浴中にトイレの使い分けが可能となり利便性が向上したといえる。事務所が無く、サンルームと呼ばれる訓練室と脱衣所をつなぐ空間を廊下兼事務室として使用している。

施設Cは訓練室・静養室・浴室・脱衣室・男女兼用トイレ・調理場・事務室で構成されている。訓練室は午睡室・トイレ・事務室と隣接していて、調理場には施設Aと同様にカウンターが整備されている。事務室の壁にガラス窓が設けられており、事務室内からでも利用者の様子が伺える。施設Dには、トイレが女性用・男性用・車イス用の3カ所設置されている。トイレは訓練室と隣接しているが、訓練室は広いので移動距離は長くなる。事務室は訓練室と隣接し、壁にはガラス窓が設置されているため、事務室からの見守りが可能である。午睡室でも午睡は行われるが、訓練室の一角にベッドを1台設置しており、訓練室でも午睡ができる。また、平成15年に生活支援ハウスの宿直室が中庭の北側に増築されており、個室で午睡を取りたい利用者が使用することも可能であ

施設A 定員:10名 機能訓練室:23.4㎡ 静養室:14.6㎡ 浴室:28.0㎡ トイレ:7.9㎡ 床面積:139㎡		施設B 定員:10名 機能訓練室:24.1㎡ 静養室:11.5㎡ 浴室:27.4㎡ トイレ:12.5㎡ 床面積:130㎡		施設C 定員:10名 機能訓練室:36.5㎡ 静養室:16.7㎡ 浴室:18.9㎡ トイレ:10.0㎡ 床面積:169㎡	
内観 	リフト浴 	内観 	内観 		

施設D 機能訓練室:43.5㎡ 静養室:14.5㎡ 浴室:23.6㎡	定員:20名 トイレ:20.0㎡ 床面積:210㎡	内観 	施設E 機能訓練室:117.9㎡ 静養室:65.2㎡ 浴室:24.9㎡	定員:24名 トイレ:21.5㎡ 床面積:247㎡	内観 
---	---------------------------------	--	--	---------------------------------	--



施設F 定員:10名 機能訓練室:38.2㎡ 静養室:14.7㎡ 浴室:25.4㎡ トイレ:10.0㎡ 床面積:182㎡		内観 
--	---	--

注: T:機能訓練室兼食堂、R:静養室、B1:一般浴室、B2:特別浴室、W:トイレ  
W2:車椅子用トイレ、K:調理室、O:事務室

図2 施設の平面図

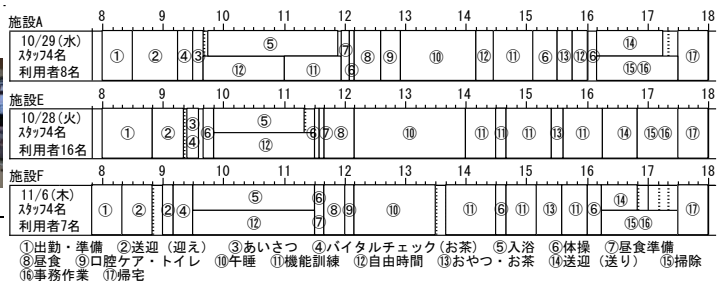


図3 1日のプログラム

る。

施設 E は訓練室が 6 施設の中で最も広く他施設の約 2 倍あり、訓練室の隅にはベッドが 6 台設置されている。また午睡室にもベッドが和室に 5 台、フローリング部分に 9 台設置されているため、ベッド数が多くほぼ全員がベッドで午睡可能である。事務室は訓練室に隣接しているが、事務室内からの見守りは難しいので、訓練室に机を置いて作業をしながら見守りをを行っている。食事の配膳は他施設と同様、カウンターを通して行っている。施設 F は唯一の「午睡室活用型」の施設であり、ほとんどの利用者が自由時間を静養室で過ごす。午睡室は和室であり、端に畳を 2 畳追加してスペースを広げている。また、和室にはコタツを設置している。事務室から訓練室への見守りはガラス窓を通して可能である。トイレは北側の 1 カ所のみで、訓練室から離れているため移動距離が長くなっている。

### 3. 1日のプログラムと施設の利用特性

#### 3.1 1日の生活プログラム

本報では、空間構成より分類した 2 タイプの中から、面積、空間構成を考慮し、「午睡室分離型」から施設 A 及び施設 E を抽出し、「午睡室活用型」の施設 F を合わせた。3 施設について、施設空間の利用特性を省察する。施設 E は別室を転用しデイサービスを行っていること、面積規模が大きいことなど施設の空間構成が特徴的であるため、「午睡室分離型」の典型事例としてではなく例外として省察の対象に加えた。

調査日の生活プログラムを図 3 に示す。送迎(迎え)、バイタルチェック、自由時間、入浴、昼食、午睡・自由時間、機能訓練、おやつ、送迎(送り)から構成され、各施設で開始時間等は異なるものの、1日の流れはほぼ同じである。送迎時間の差により 3 施設とも送迎(迎え)開始時刻が異なっているが、到着時間はほぼ同じである。バイタルチェック後、入浴・自由時間を開始するが、施設 E では全員で体操後開始する。また、施設 A は自由時間に機能訓練を取り入れている。入浴は 3 施設とも午前中に



図4 午前の自由時間・入浴

完了している。昼食準備は利用者の入浴完了次第開始されるため、施設ごとに時間が異なる。昼食後、施設 A, F では口腔ケアが行われ、施設 E はそのまま午睡へ移行する。午睡は 60 分程度の施設が多いが、しらとり苑では 90 分程度と長い。その後機能訓練が行われ、おやつ後も施設 A, F では体操、施設 E では機能訓練が短時間行われる。

### 3.2 午前の自由時間・入浴

午前の自由時間と入浴時の活動場面の事例を図 4 に示す。施設 A では、利用者は各自決まった席で自由時間を過ごすため、廊下にあるロッカー、またはトイレに行く以外移動はほとんど観察されなかった。廊下にあるリクライニングに座って過ごす利用者が 1 名いた。また訓練室が狭いため、移動介助の時に職員が椅子背面通路を確保しづらい。そのため、見守り中は空いている席に座るか、デスクに座ったままで行う。入浴介助は、脱衣介助・利用者の誘導を 1 名、浴室での介助を 1 名、計 2 名の職員が担当する。浴槽に入る階段と浴室の出入り口が近く、利用者の出入りがスムーズに行えない。リフトを使用する際、リフト操作と安全確認に職員が各 1 名ずつ担当して入浴介助を行う。施設 E では、施設 A と同様、自由時間を座ったまま過ごす。行動観察調査中に訓練室内のベッドで 1 名横になる利用者を確認したが、他にも座ったままうたた寝する利用者もいた。職員 4 名の役割分担は決まっていないため、状況に応じて対応している。施設 E の浴室は広いいため、一度に 6 名が脱衣介助と入浴介助を受けることが可能で、職員 3 名で入浴介助を行っていた。施設 F では、自由時間は訓練室を利用せずに午睡室で過ごす。これは利用者の年齢層が高く、和室で横になりながらゆっくり過ごしたいという要望が多くあ

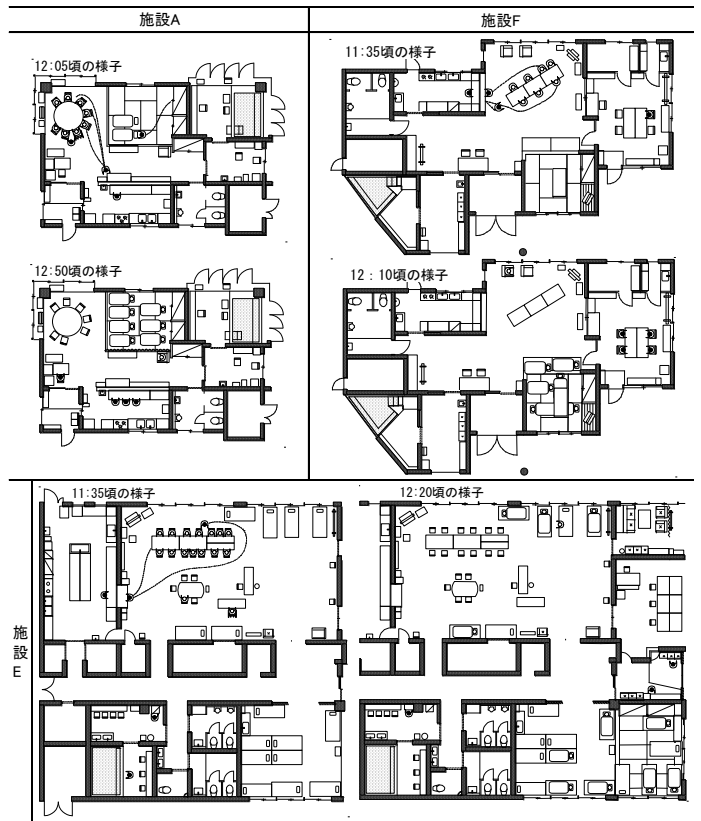


図5 昼食・午睡

ためである。リクライニングに座って過ごす利用者が 1 名いた。トイレに行く際、職員がトイレまでの付き添いを行っている。入浴介助については職員 2 名が担当していた。

### 3.3 昼食・午睡

昼食・午睡の活動場面の事例を図 5 に示す。施設 A では自由時間と同じ場所で食事を行うため、昼食前に移動の必要が無い。しかし、昼食準備中も利用者が席に着いた状態のため、椅子背面通路が確保できず、配膳に注意が必要である。昼食後の口腔ケアでは、一斉に移動するため混雑し、脱衣所にある椅子で順番を待つ利用者もいた。その後全員が和室で午睡をするが、作業をする職員が利用者の午睡の妨げにならないように午睡室にカーテンを引く。昼食中に午睡の準備をしているので円滑な場面転換が行えていた。しかし午睡室が小上がりになっているため利用者は這って移動し、また職員 2 名で抱えて車イス利用者の移動介助を行っており、段差が障害になっていた。施設 E でも施設 A と同様、昼食前に移動の必要が無いが、訓練室が広いいため施設 A とは違い配膳は容易である。昼食終了後はそのまま午睡に移る。午睡は訓練室と午睡室に分かれて行われるが、その間職員は訓練室内にいるため、体調の悪い利用者や介護度の高い利用者は見守りのしやすい訓練室内で寝る。「午睡室分離型」であるが、訓練室でも午睡する利用者があるため、午睡せず会話していた利用者と午睡をする利用者とは完全に分離

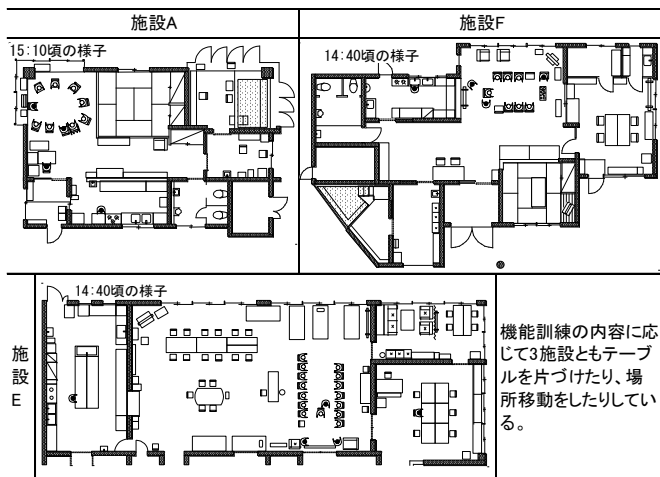


図6 午後の機能訓練

されているわけではなかった。施設Fでは自由時間を午睡室で過ごすため、昼食準備に取り掛かる前に、職員は訓練室までの移動介助を行う必要がある。午睡は全員午睡室で行い、その間職員は事務室にいるため、事務室のガラス越しや機能訓練室に入室し、利用者の様子を見守っている。

### 3.4 午後の機能訓練

午後の機能訓練の活動場面の事例を図6に示す。施設Aでは午睡が終了すると、訓練室内の席に戻る。機能訓練中も午睡を続ける利用者も1名確認できた。機能訓練では座ったまま体を動かす内容が多く、歌を歌う間も楽器を使用し身体を動かす。その後座ったまま体操を行うが、先にテーブルを畳んで廊下の隅に片付ける。テーブルを置いたままでは狭く、職員の介助が難しいこと及び、体操中利用者同士がぶつかるのを回避するためである。その間利用者は席に座ったまま待たなければならない。施設Eでは午睡終了後利用者は訓練室の席に戻り、まず短時間の体操を全員で行う。その後午睡中職員が椅子を並べた事務室側のスペースへ移動し、ボール投げのゲームが行われる。訓練室を自由時間に過ごすスペースと機能訓練のためのスペースの2つに分割し、機能訓練時には2つのスペースを交互に使用することで、職員は準備や始末行為をスムーズに行うことが可能となり、利用者は移動のみで場面転換が可能となる。施設Fでは全員が座れるよう、午睡中にテーブルを2つ片付けて機能訓練の用意をしておく。午睡後、利用者は1つのテーブルの周りに座り、トランプを始める。職員2名がそれに加わり、交代で1名ずつが事務室に戻り作業を行っている。その後職員が全てのテーブルを片付け椅子だけの状態にして広い空間を確保し、座ったまま風船バレーやボールを使いながらの言葉遊び等を行う。全ての椅子移動は利用者

が座ったままの状態職員が椅子を引き移動させていた。

## 4. まとめ

本報では、周防大島町社会福祉協議会が運営するデイサービス施設を対象に、空間構成と高齢者の1日の活動との関係について考察を行った。得られた知見は以下の通りである。

1) 6施設の空間構成は、「午睡室分離型」「午睡室活用型」の2タイプに分類できた。「午睡室分離型」では利用者がほとんどの時間を訓練室で過ごし、午睡のみが午睡室で行われている。「午睡室活用型」では午睡室が午睡のみではなく、自由時間でも多く活用されている。部屋構成は非常に似ているが、自由時間を過ごす場所の違いが大きな特徴である。

2) 施設A,Eは同じ「午睡室分離型」であるが、施設Eの訓練室は施設Aよりも約3倍広く、通路を確保できる点で施設Eの方が配膳や移動介助を容易に行え、さらに訓練室を自由時間に過ごすスペースと機能訓練のためのスペースの2つに分割することができるため、事前に職員が次の活動の準備でき、利用者は移動のみで場面転換が可能となる利点が施設Eにはある。しかし、午睡の際施設Eでは午睡しない利用者と午睡する利用者とは完全に分かれていないのに対して、施設Aでは完全に分けることができていた。

3) 「午睡室活用型」の施設Fでは、施設の空間構成は同じであるが、利用者の自由時間を和室で過ごしたい要望により午睡室を多く活用している。一方で、場の転換に伴い、介護度の高い利用者に対し移動介助が必要となり職員の負担が増えている。

## 参考文献

- 1) 中園真人他2名：木造民家を再利用した高齢者デイサービス施設の空間構成と使われ方, 日本建築学会計画系論文集, 第79巻 第696号, pp. 491-499, 2014. 2

\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

\*\* 山口大学大学院理工学研究科 博士後期課程

\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 講師・博士(工学)

\*\*\*\* 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

\*\*\*\*\* 筑波大学システム情報系 助教・博士(工学)

\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

\*\* Doctoral Course, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.

\*\*\* Lecturer, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng.

\*\*\*\* Professor, Yamaguchi Univ., Dr. Eng.

\*\*\*\*\* Assistant Prof., Faculty of Eng., Info. and Systems, Univ. of Tsukuba Dr. Eng.